

低学年 児童期の学習

～保護者のみなさまへ～

言うまでもなく、わが子を学習塾に通わせるのは「**高い学力のもち主に成長してもらいたい**」という願いがあるからです。しかしながら、「**どんな方法でもよいから、とにかく学力が伸びればよい**」とおっしゃるかたはおられません。それは、「**どんな勉強で学力をつけるか**」が、学力の内実に違いをもたらすとともに、

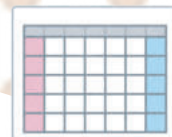


子どもの人間形成面に少なからぬ影響を及ぼすことを知っておられるからでしょう。

しかしながら、いざ学習塾にわが子を通わせると、**わかっているはずの原則が忘れ去られる**こともあります。というのも、大概の学習塾では定期的に**テスト**が実施されます。結果が得点のみで表示されるならまだしも、順位が示されたりすると、親は心中穏やかではなくなります。受験を視野に入れた進学塾では学力指標として、総合順位、科目別順位などが知らされます。これが親の**平常心**を失わせてしまい、「とにかく、成績を上げなきゃ!」になってしまうのです。



ただし、**低学年児童期**ならまだ頻繁にテストはありませんし、親の側も**気持ちに余裕**があります。テストでの点数や順位に気を奪われることなく、わが子が望ましい取り組みで勉強の成果をあげられるよう配慮やサポートをすることができるでしょう。低学年の段階から学習塾にわが子を通わせるメリットは、**基礎レベルの学力を確かなものにする**だけでなく、**親も先々の中学受験に向けた気持ちの備えができる**という点にもあるのだとお考えください。



低学年児童が学習塾を利用される場合、勉強は教室指導のみのケースもあるかもしれませんが、多くの学習塾では**家庭での勉強**と組み合わせられています。弊社も例外ではありません。低学年児童の場合、家庭勉強をまだ子ども任せにはできませんから、**毎日の学習スケジュールを親子で話し合って立て、勉強の時間になったら机やテーブルに向かわせ、慣れるまでは一緒に取り組みながらお子さんに勉強の要領を教えるなど、かなりのフォローを要する**でしょう。おたくではどんな具合でしょうか。



子どもの勉強ぶりを見て、いつもイライラしているかたはありますか？
これは当たり前のことでしょう。一定の技能を用い、思考を継続しないとできない課題が多く、それを誰にも頼らずにすいすいとやりこなす子どもなどほとんどいません。おまけに、勉強の重要性を自覚できる年齢に達しておらず、勉強の時間になっても一向に支度を始める気配のない子どももいます。さらには、やっと始めたかと思うと「難しくてできない」と投げ出してしまうこともあるでしょう。



つまり、低学年児童期までの家庭学習には親の関与が必要であり、子どもに「さあ、やりなさい」と言ってもなかなか一人では取り組めないのが現実です。しかし、この親がかりの段階をどう生かすかで、子どもの先々の学力の伸びようも大きく変わってくるのです。どういうことかという、親が「何もかも面倒を見て、子どもに依存心を植えつけてしまうか」、それとも「親が面倒を見ながらも、子どもが自分で勉強を算段できるよう、少しずつ自立を促していくか」で、高学年になってからの受験勉強の取り組みや成果に雲泥の差が生じるのです。



今、ご家庭でお子さんの勉強のフォローをされていると思いますが、その際に「今手伝っている勉強を、やがてはわが子が一人でやれるように」という意識をもっていただきたいと存じます。そして、「これは、親が手伝わなくても子ども自身でできるのではないか」と思ったら子どもにやらせてみるのが重要です。そうして、徐々に子ども自身の裁量を拡大し、親の関与する領域を狭めていくのです。つまり、親が子どもの勉強の面倒を見るのは、やがて来る勉強のひとり立ちにむけた準備をするためなのです。このひとり立ちの時期が遅くなるか、早くなるかで、子どもの人生の歩みは随分違ってきます。また、親の苦労も多くなったり少なくなったりします。



弊社では4年生から中学受験準備に向けた学習指導が始まりますが、この段階ではまだまだ親の関与が必要です。しかし、これまでお伝えしたような自立に向けた支援をしておられれば、お子さんが自力で受験勉強をやり遂げる時期が早めに来ますし、自分の力で勉強を押し進める推進力を養っていますから、成果も大いに上がるでしょう。逆に、親がテスト成績に翻弄され、テストに備えた勉強を取り仕切ってしまうと、見かけの成績こそ何とか維持しても、子どもの側に学びの推進力がないため、いつまでも親に頼る状態が続きます。そして、入試問題に挑戦して学力を仕上げる6年生の秋ごろになると、もはや親も手伝うことができなくなり、自力勉強のできる子どもと、親（大人）に頼りっぱなしだった子どもとの学力差が一気に開くこととなります。



お子さんが低学年期にある今、子どもの勉強の自立に向けてご配慮いただきたいことをお伝えしてきましたが、勉強の自立は**生活の自立**と密接につながっています。今のうちに、何でも**自分のことは自分でやる姿勢**を尊重し、自分からやろうとしたらお子さんを**大いにほめたり喜んだり**してあげてください。その繰り返しを通してお子さんは、「**おかあさん（おとうさん）は、自分のことを自分でやる人間になることを望んでいるのだ**」ということを学んでいくことでしょう。



中学受験を自律の姿勢を育みながら乗り越えたお子さんは、どの中学校に進学しても立派にやっています。それこそが**受験の結果を超える成果**です。受験勉強が始まるまでには時間があります。この段階を大いに生かし、**子どもの学びの自立に向けたサポート**を継続的に行っていただきたいと存じます。